



タケシ

後援会ニュース

発行 2023年1月
発行 大貫タケシ後援会
住所 鹿沼市坂田山1-83
TEL・FAX 0289-63-0265
Mail takeshi@one.bc9.jp

第 33 号



地域資源を活かした 魅力あるまちづくり

昨年中は大変お世話になりました。新年が明けましたが、今年も変わらぬご指導のほどよろしくお願いたします。今年はずいぶん、ウサギにあやかっけて飛躍の年としたところですが、第8波に突入した新型コロナウイルス感染症、少子化、物価上昇など不安要素は枚挙にいとまがありません。とりわけ、昨年の出生数が統計開始以来初の80万人割れが見込まれるなど、予想を上回るスピードで進む少子化・人口減少は国難ともいわれる状況です。4月には「こども家庭庁」が発足しますし、岸田首相も年頭の会見

では「異次元の少子化対策」を行うと強い決意を示しています。今年も統一自治体選挙があるわけですが、選挙目当ての単なるスローガンに終わらないことを切に願います。日本全体の人口減少は少子化に原因があります。さらに少子化が進む原因は、未婚化・晩婚化にあるといわれています。未婚化・晩婚化の原因は、ライフスタイルの変化のほか経済不安や子育て支援の不足があるといわれています。一時期、将来消滅する自治体が現れるなど喧伝され、各地方自治体は地方創生というところで人口獲得競争に

駆り立てられました。当たり前ですが、それで日本の人口は全く増えませんでした。私は国が責任を持って抜本的な少子化対策を行なうべきと考えます。特に、バブル崩壊以降、不安定雇用の増加が問題となつていますが、若者が結婚や子育てに前向きになれるような雇用や賃金改善は急務です。また、先進諸国の中で最低レベルの子育て及び教育に対する公的支出を先進諸国並みに引き上げ、子育てや教育に不安のない社会にしていくべきです。さて、地方の人口減少は、少子化の影響プラス人口の流出が加味さ

○鹿沼市の人口推計

	2015年	2045年
総人口（県）	1,974,255	1,560,619
総人口（市①）	98,374	68,765
総人口（市②）	〃	79,735
増減率（県）	100	79.0
増減率（市①）	100	69.9
増減率（市②）	100	81.1

上記数字は国立社会保障・人口問題研究所による推計です。①の数字は、出生と死亡、人口移動による影響を加味して推計したものです。②の数字は、出生と死亡だけの要因で人口が変化すると仮定した推計結果、すなわち、人口移動の影響を含まない推計結果です。

○令和2年鹿沼市人口動態（令和2年12月1日時点）

★自然増減

出生数（人）	死亡数（人）	増減（人）
560	1,162	△602

★社会増減

転入数（人）	転出数（人）	増減（人）
2,094	2,434	△340

れます。残念ながら、鹿沼市はこの人口流出が将来的にも県平均より大きいと予想されています。なぜそうなるのか明らかにし、鹿沼の地域資源を活かし、他市にはない魅力を見出し、今年のとを、今年私の課題としていきます。

大貫タケシの議会報告

11月22日から12月19日まで、令和4年第4回定例会（12月議会）が開催されました。12月議会では、令和4年度の一般会計などの補正予算について、「鹿沼市こども医療費助成に関する条例」などの条例改正について、それぞれ審議を行い決定しました。

一般質問は14人の議員が行ないましたが、私、大貫タケシは議会開始直前に新型コロナウイルス感染症に罹患し、発言通告を行なうことが出来ませんでした。以下、議会で決まったことなどを報告します。

燃料費高騰・物価高、コロナ、マイナンバーカード対策で大型補正

物価高騰対策や新型コロナウイルス感染症対策などで、12月議会（専決処分を含む）で3次にわたる一般会計補正予算を決定しました。総額で約18億円を超える



1月末までが使用期限ですよ。お忘れなく！

大きな補正となりました。具体的には、物価高対策では、市民1人あたり3千円の「商品券」を給付し、新型コロナウイルス感染症対策では、オミクロン株対応のワクチン接種に約4億1千万円などです。今回の補正の多くの部分は、国の交付金等で賄われています。お金は国から出ますが、実際の業務は市役所が行なっていますので、職員は大わらわです。もっと、人も予算も地方に配分すべきなのです。

令和4年度一般会計補正予算の主な重点事業

補正額 1,802,227千円

- 原油価格・物価高騰対策 1,244,969千円
 - ・住民税非課税世帯等に対し1世帯あたり5万円給付
 - ・市民1人あたり3千円の市内商品券を給付
 - ・保育施設・学童施設等へ1施設あたり15万円の光熱費支援
- 新型コロナウイルス感染症対策 409,277千円
 - オミクロン株対応ワクチンの接種。12歳以上、1,2回接種完了者対象
- 職員等人件費 186,532千円
 - 人事院勧告に伴う職員給与等の増加、退職者増による退職金増
- 市関連施設の光熱水費等 102,358千円
 - 燃料価格高騰等に伴う電気料、燃料費等の増
- バス路線対策費 56,000千円
 - 空調機能及び燃費向上のためのバス車両の更新
- マイナンバーカード取得促進 21,674千円
 - 出張申請の充実、クオカード交付の増加、窓口態勢の強化
- 出産・子育て応援事業費 1,447,110千円
 - 妊娠時に5万円、出産時に5万円を給付、相談支援の強化

少子化対策、子ども・子育て世代への支援
 妊娠と出産時に5万円給付、医療費は高校生まで無料化
 「いちごっこ出産・子育て応援事業」がスタート
 安心して出産・子育てできるように、「伴走型相談支援」と「出産・子育て応援給付金」を一体的に行う「いちごっこ出産・子育て応援事業」が始まります。

「伴走型相談支援」は、不安を感じている妊婦さんや子育て中の方、産後うつの方などに寄り添ってサポートを行います。また、「いちごっこ出産・子育て応援事業」は、妊娠8カ月頃、出生時に面談を実施し、その後も相談と情報提供を切れ目なく継続的な支援がおこなわれます。

「出産・子育て応援給付金」は、妊娠届出時と出生届出時の面談後にそれぞれ5万円が支給されます。対象は、令和5年1月以降に妊娠届出および出生届出した方並びに令和4年4月1日以降に出生した子どもを養育する方となります。

こども医療費、高校生まで無料に

こども医療費の助成対象が、令和5年度4月診療分の医療費から中学生（15歳）から高校生相当年齢（18歳）まで拡大されます。県内の医療機関であれば、保険診療内の医療費（自己負担分）が窓口で無料（現物給付）になります。県外の医療機関での診療は、申請により、後日助成（償還払い）となります。

市職員の定年、65歳に引き上げへ

市職員の定年が令和5年度から段階的に引き上げられ、令和13年度から現行の60歳定年が65歳定年となります。また、役職定年制が導入され、60歳を超えると役職を解かれ、給料は7割程度に引き下げとなります。

年金支給が65歳になることから、民間企業と同様の制度が取り入れられることとなります。60歳を過ぎててもやる気と能力が発揮できるような適材適所の職員配置、組織のあり方を検討し、役所全体のパフォーマンスが低下しないこと望みます。

栃木特別支援学校寄宿舎の存続を求めめる陳情書など6件の陳情を審議

「学校・幼稚園・保育園における子どもの健全な育成を求めめる陳情書」と題する陳情が4件提出されました。具体的には、「運動時、登下校時のマスクの非着用の徹底」「黙食の緩和」「マスク着用の強制をしないこと」などを求めるも

のです。審議の結果、運動時等のマスク着用及び黙食の緩和に係わる陳情は賛成多数で採択となり、その他の2件は不採択となりました。私は、マスクなどの効果は一定程度認めるべきであり、マスク着用や黙食の是非についての判断は、議決でなく、専門家が示した基準に基づき、学校、生徒、保護者間で十分な意思疎通を図り対応していくべきものと考え、陳情には反対しました。

「民主主義・立憲主義の基盤である思想、良心の自由、請願権等を守る為の陳情」が基本的人権を守る為の市民の代表の方（新聞報道によれば旧統一協会関係者）から出されました。内容は、「特定の宗教法人及びその関連団体との関係を遮断する内容の宣言・決議をしないこと」などを求めるものです。賛成者無く、不採択となりました。

「栃木特別支援学校寄宿舎の存続に関する意見書の提出を求めめる陳情書」については、栃木県が当初の令和4年度末での閉舎を延期したことから、県の方針決定を見守るべきとの意見が多数となり、継続審議となりました。私は、今議会で採択すべきとの立場であったので、継続審議には

反対をしました。理由は以下の通りです。県は、閉舎延期を決めましたが、閉舎すると基本方針には変更が無いようです。県において、存続を求める保護者の意見を十分に聴取し、通学困難者のためだけ無く、こどもの発達に効果がある寄宿舎の新たな価値も含めて今後のあり方を議論すべきです。そのためにも、県での議論を促すためにも採択すべきだと考えます。

最近の鹿沼市議会変じやない？

最近、少なからぬみなさんに「最近の鹿沼市議会はおかしくないか」とのご指摘を頂きます。「市民生活と関係の無いことを毎回延々質問しているのは異様だ」「言葉遣いや態度がとんでも市民の代表である議員のものとは思えない。見るに堪えない」「政局より市民生活や鹿沼市の将来を見据えた議論をして欲しい」などなど。まあ、私から見ても「そうだよな」と思えてしまう状況です。

今議会も自民党のみなさから「佐藤信鹿沼市長に対する問責決議」なるものが飛び出しました。結果は少数否決でしたが、発端は9月議会に行なわれた決算特別委員会に遡ります。一部の委員が発言通告を行わずに延々と質疑を行なった（審議は夜の9時過ぎまで行なわれた）ことを佐藤市長が問題視し、発言通告の徹底を要請したことあります。これに対し、「過度に委員会に直接介入し、言論の府である議会の役割に影響を及ぼし、ひいては議会活動を萎縮させ、民主主義をおびやかす」と問責決議と相成りました。しかし、発言通告を行なうことは委員会で議員自らが決めたこと（通告なしでも発言は認めるとしています）ですし、通告といっても、箇条書き程度で質問項目、趣旨を記載するだけです。しかも、ほとんどの委員は通告を行なうて質問しています。言論の府たる議会は、いたずらに政局を煽るのではなく、政策で切磋琢磨すべきなのではないでしょうか。いかがですか自民党のみなさん。

私事ですが、「コロナの妖精（？）になりました」



昨年11月末、不覚にも新型コロナウイルス感染症に罹患しました。まず父親が発熱し、2日後に母親、私も発熱、抗原検査キットで検査を行なったところ、2本線がクッキリ、妖精（？）ではなくて陽性となりました。2日ほど38度の熱が出て、1週間ほど体のだるい日が続きました。現在は無事回復し、幸いにも味覚障害など後遺症も無い状態です。

残念ながら初当選以降、毎議会でご一般質問を行なうてきましたが、今回は発言通告を行なうことが出来ずお休みとなってしまいました。

まだまだ、感染拡大が続いておりますので、みなさんご注意ください。

松井正一 県議とともに

「つながるかぬま・プロジェクト2023」を推進します。

今年は統一自治体選挙の年です。4月には県議会選挙、9月には市議会議員選挙が予定されています。全国一斉に行なわれる統一自治体選挙は、地方政治、ひいては国の政治を変える可能性を秘めたものです。

さて、松井正一県議は、従来の政策をバージョンアップした「つながるかぬま・プロジェクト2023」を掲げました。私、大貫タケシも松井正一県議とともに同プロジェクトを推進していきます。



「つながるかぬま・プロジェクト2023」

1 あらゆる世代とつながる

教育環境の充実、若者の就労支援、リカレント教育の充実、生きがいづくりで健康寿命の延伸など

2 生活者・労働者・障がい者とつながる

消費者教育の充実、障害者施策の充実など

3 命とつながる

感染症対策の充実、地域医療の充実と人材確保など

4 未来とつながる

人口減少対策を強化、産業全般の後継者等人材育成など

5 安全・安心とつながる

防災対策の充実、生活交通ビジョンの整備など

6 自然豊かな環境とつながる

地球温暖化防止対策の推進、中山間地域活性化など

7 元気で生き生きとした産業とつながる

6次産業化の推進、県産材の利用促進、産業団地の整備促進など



毎週月曜日のマンデーレポート
1月9日で439回。



年4回のタウンミーティング
昨年11月で24回。



昨年12月26日、鹿沼市へ政策
提言を提出。

大貫タケシ・プロフィール

生年月日 1960年9月26日生(61歳)

○学歴

西大芦西小学校、西中学校、鹿沼高校を経て
宇都宮大学農学部農業経済学科卒業

○職歴

1983年4月より28年間鹿沼市役所勤務(福祉
2019年9月市議会議員当選(3期))



記事に対するご意見、市政に関する
意見・要望などございましたら、遠
慮なく下記までお寄せください。

TEL・FAX 0289-63-0265
携帯 090-7736-2017
メール takeshi@one.bc9.jp